

会報 なかさ と

E-mail nakasatokouryusenta@net1.jway.ne.jp

中里学区コミュニティ推進会
 発行責任者 石川 諒一
 編集事務局 皆川 汪
 TEL 0294-70-8005

中里学区人口 R2-11.1現在
 世帯数 458
 総人口1064
 男 458 女 546

中里小・中一貫校の新築工事が開始され令和4年4月完成します

7月から始まった先行解体工事(交流センターと結ぶ渡り廊下、屋外トイレ倉庫等に次いで、10月より新校舎の建設工事が開始され、グラウンドの中央には工事区域内を示す真っ白な塀を設置、令和4年2月完成に向け建設進行中です。(供用は4月)

学校建築計画の前提条件は下記に記載いたしますが、里川の流れに沿い、水辺空間広場の上、9本の桜の木に寄り添って2階建て総木造作りの校舎が立ちます。その後既存校舎の取り壊しが令和4年5月までに完了後、第二期工事として学校職員、地域利用者の駐車場とグラウンドが整備されます。

駐車場は、交流センターに入る側に50台確保される駐車場がでます。また、グラウンドは交流センターを正面にしたゆとりある広さで、子供たちものびのび安全に利用できるグラウンドが完成します。(令和5年2月完成予定)

工事進捗、その他について定期的に「校舎改築事業定例会」を教育委員会主催で交流センターにて会議が行われています。お問い合わせ等、交流センター石川諒一会長にご一報ください。



三つの特性を活かした校舎改築事業の前提条件 資料抜粋

- (1) 立地の特性
 - ・豊かな自然に囲まれている
 - ・学校が地域の中心
 - ・周辺に自然の教材があふれている
- ① 五感を育む学校
 - ・自然を近くに感じることが出来る
 - ・中里愛を育む
 - ・自然を活用した校舎
- (2) 学校の特性
 - ・英語やことばの学習に力を入れている
 - ・1クラス10人の少数の一貫校
 - ・他の地域からの子どもたちが集まる
 - ② 多様な交流を育む学校
 - ・小規模だからできる学校
 - ・地域の人とコミュニケーションが取れる学校
 - ・独自のコミュニケーション「なかさとスタイル」
 - (3) 地域特性への対応
 - ・地域のシンボル
 - ・地域の活性化
 - ・地域交流を促す場
 - ③ 地域の中心となる学校
 - ・地域のシンボルになる学校(中里の地域イメージを象徴する建物デザインにする)
 - ・地域活動の中心として利用したくなる設計支する
 - ・どんど火祭りなど祭りが開催出来る
 - ・フルーツ街道と連携したマルシェが開催できる場にする
 - ・地域に対して開かれた学校(地域に対し開かれ居心地がデザイン、交流センターと合わせて地域活動の大半を行う)
 - ・地域の人が見守るセキュリティ(地域の人との交流を強めて地域の人に見守られる学校、子どもたちの様子に直ぐ気づける学校にする)となっております。
 - ・コロナ禍のなかですが天気の良い日は是非交流センターに散歩に、学校の完成する様子見に来てください

中里学区「コミュニティ活動の今後について」

石川 諒一コミュニティ会長

紅葉も進み、秋も深まってまいり今年も残すところ約1ヶ月となりました。

2月末より始まったコロナ禍で、今年度前半のコミュニティ事業は総会をはじめ殆どの行事を中止せざるを得ませんでした。10月から「おもちゃライブラリー」「ふれあい健康クラブ」「ふれあいサロン」「長寿大学」行事を検温マスク着用、手指消毒、参加者の人数制限などのコロナ感染対策を図り再開しました。



中里学区コミュニティ推進会としては、できるだけだけの事業は例年通り進めていくことを計画しております。しかしながら、食事を伴う行事や、大人数になるイベントは中止せざるを得ず中里小・中学校との合同体育祭や文化祭・ふれあい祭りは中止と致しました。

今年度残り半年間の事業については、11月には「文化祭(作品展示のみ)」「再発見ウォーク」「中里学区市民ゴルフ大会」12月には、「防災訓練」「大掃除」「子ども会行事」1月には「新年賀詞交歓会」は実施しますが、「どんど火祭り」は中止と致します。

現時点では、中里学区内でのコロナ感染者はゼロですが、年末年始になり人の移動往来も多くなりますので、コロナ感染対策を十分に配慮お願いいたします。



11月実施の再発見ウォーク・文化祭

各種の「寄付」協力ありがとうございます

中里学区コミュニティ推進会 会長 石川 諒一

10月には共同募金期間として、23地域の推進員の皆様のご協力により全戸より募金をいただきました。また、中里学区内の大口募金として、個人事業主の方から9件合計11万円のご寄付をいただきました。また、NPO公共交通維持資金として

- ① 匿名の方より 30000円
- ② 會澤俊子さん 手作りマスク売上金 40000円(11月20日現在)のご寄付を頂き感謝申し上げます。皆様に愛される公共タスク維持のために活用させていただきます。

マスク作りについて會澤俊子さんに聞きました

「手作りマスクの良いところは、一石四鳥になります」との回答。

- ① 使い捨てマスクのゴミが減る
- ② 自宅に眠る端布の始末ができる
- ③ 少しでもなかさと号に貢献できる
- ④ 作ることで自分も楽しめる

コロナ禍のなか、街の中でマスクをしないで歩いている人は見かけません。使え捨て不織布マスクをしている人、繰り返し使用可能なプラスチック繊維のマスクの人、手作りマスクの人とまちまちです。

その手作りマスクも最近はお洒落な柄模様・形がありファッションの一部となっています。

これらを考えると手作りマスクは一石五鳥かもしれせん。會澤さんは当初200枚目標でしたが、好評で300枚に目標変更し奮闘しています。後から追加した高級布地を使用したマスクは柄模様も好評、男性用も追加され完売。





整備され、紅葉が始まった水辺空間



初秋の色染まる水辺空間 復旧工事了りました

10月で昨年の台風19号による水辺空間の復旧工事が完了しました。里川にかかる紅葉も色付き始め台風の被害による爪痕もすっかりきれいになりました。

但し、今年から始まる中里小・中学校の校舎建設のため建築資材置き場として使われるので利用できるようになるのは、令和3年末ごろになります。新校舎と整備された水辺空間。地域の散歩コースとしてお楽しみ下さい。

第43回 文化祭が行われました

11月7日(土) コロナ禍のなか恒例の「ふれあい祭り」は中止となったが第43回文化祭は、コロナ感染防止を充分に行い開催しました。このような厳しい条件下でも多数の作品展示の募集があり、前日より文化部大津満夫部長指示のもと展示会場作り、併せて作品展示を行い文化祭開催の運びとなり、7日、8日午前中までに約100組、150人余りの人の見学者が交流センターを訪れました。大津満夫部長も、「このようなコロナ禍の中、手芸・絵手紙・生花・盆栽書画など見て少しでも心和む一瞬ができればいいね!」と自身も作品展示完了後の夜、奥様と二人で遅くまで玄関の「初秋を楽しむ」の飾りづけをし当日を迎えました。



見学者を迎える玄関、この場の作品を毎回作って展示。アイデアと労力に感服です。